



できごと

今年度の子ども図書研究室講座は、「はじめてのストーリーテリング」をテーマに、3回の連続講座を平日コースと土曜コースに分けて、平成20年10月から12月にかけて行いました。

ストーリーテリングとは、お話を覚えて語ることです。今回は未経験者を対象とし、浜松で長年ストーリーテリングを実践されている「おはなしつむぎの会」に講師をお願いしました。毎回、実際に講師のストーリーテリングを聞き、その後には講義を聞きました。

修了後のアンケートには「ストーリーテリングを満喫できた」「これから勉強してやってみたい」などの声が寄せられました。(裏面に、概要を紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

「雨の本」

「中国語の絵本」

新着図書も常時展示中です。

イベント情報

国際子ども図書館「ゆめいろのパレット」

野間国際絵本原画コンクール入賞作品

アジア・アフリカ・ラテンアメリカから

第16回野間国際絵本原画コンクール入賞作から選んだ原画68枚とアジア、アフリカ、ラテンアメリカの絵本約150冊を併せて展示します。

開催期間:2009年3月14日(土)~7月5日(日)

休館日:月曜日、国民の祝日・休日(5月5日を除く)、資料整理休館日

開催時間:9:30~17:00

会場:東京都台東区上野公園12-49

国際子ども図書館3階 本のミュージアム

新着資料から

物語

『空を飛んだポチ』



杉山 亮 / 作

おかべ りか / 絵

講談社

2008年10月

八ヶ岳のふもと、緑に囲まれた小淵沢では、その豊かな自然のせい、都会の人が聞いたらびっくりするような楽しいことが起こる。車のかわりに2メートルを超えるかぶと虫に乗ったり、強風のなかに吊るしておいためざしが伸びてさんまになったり……。そんな小淵沢を舞台にした愉快的出来事を語る。

著者が自宅で行う語りを基に書籍化。スケールの大きな話に思わず笑みがこぼれると同時に、自然の雄大さ、自然と共に暮らす楽しさが伝わってくる。【小学校中学年から】 (渡辺勝)

知識

『数学をきずいた人々』



村田 全 / 著

さ・え・ら書房

2008年10月

(1967年発行の新装版)

数学の歴史に偉大な功績を残したユークリッド、デカルト、ニュートン、関孝和の伝記。

4人の人間像や業績はもちろん、それらを通じて「数学のこころ」を、数学の発達の歴史を、学問とは何かを、平明かつ味わい深い文章で語る。ありがちな伝記物語ではなく、読み手に史実を検証しつつ書いていることがうかがえる。数学を根底とするヨーロッパの文明にも言及し、単なる偉人伝では終わっていない。また、授業であまり扱うことのない、和算という日本独自の数学の歴史も興味深い。【中学生から】(牧田)

子ども図書研究室講座 「はじめてのストーリーテリング」報告

ここでは、講義の内容とお話のプログラム、そして、講義の中での講師の言葉をいくつか紹介します。

1 日目

(1) はじめてのストーリーテリング：
「アナンシと五」「馬方やまんば」「びんぼうこびと」「手なし娘」「師番(しばん)の赤馬」

(2) 耳で聞く昔ばなしの特徴

(3) 伝承の語り手の語りを聞く

プログラムは、日本と外国の昔ばなしの中からスタンダードなものを選んだとのことでした。

伝承の語り手とは、幼い頃昔ばなしを耳から聞いて、語れるようになった人のことで、本から覚えて語る現代の語り手と対比して用いられる言葉です。岩手県遠野生まれの鈴木サツさんの、「お月お星」「豆腐とこんにゃく」「おしらさま」をCDで聞きました。初めのうちは、方言がわからず全く内容が聞き取れませんでした。少しずつ分かるようになってきました。

昔ばなしは方言で語るのが最も美しいが、多くの人に広く聞いてもらうためには共通語を使用するのがよい、「だべ」など付けてどこのものでもない方言らしくするのは、方言を馬鹿にしていることになる、との言葉が印象的でした。

2 日目

(1) 小さい子向けのストーリーテリング：
「三枚のお札」「アリョーヌシカとイワーヌシカ」「浦島太郎」「三びきの子ブタ」「おいしいおかゆ」

(2) 昔ばなしを子どもに語る意義

朗読との違いを体験するため、アンデルセンの『絵のない絵本』から1編を朗読していただきました。

また、子どもがお話をどう受け止めるのかについても、長年の実践経験を踏まえたお話があ

りました。例えば「三枚のお札」には、子どもを引きつける力があり、対象年齢は幼稚園の年長から小学校4年生くらいです。このお話に出てくる小僧さんは子どもそのものであり、聞き手の子どもは、言葉にはできないが、自分の中であって自分を脅かすものとお話の中で戦っていると考えられます。

なぜ語るかについても、「本の世界への手助けになる」「言葉や人に対する信頼を育てる」「知識を知恵にかえ、生きる力になる」などの点を挙げることはできるが、こういうことを言葉にするとお話の魔力は消えてしまうので、お話の世界を共有することを楽しむのがよいと語られました。

3 日目

(1) 大人向けのストーリーテリングを楽しむ：
「お月お星」「くもの化けもの」「ルンペルシュティルツヘン」「三つの金曜日」「百姓のおかみさんとトラ」「おんちよろちよりの穴のぞき」「12の月のおくりもの」「大歳の火」

(2) よい再話を次代に

よい再話とは、昔ばなしの文法に即していて耳で聞いて分かるもの、昔ばなしの持つメッセージを正しく伝えるものを言います。私たちはよい再話を選ぶ耳と目を持たなければなりません、との言葉で講義を終えられました。

所蔵資料から

研究書

『鈴木サツ全昔話集』



鈴木 サツ / 語り

鈴木サツ全昔話集刊行会 / 編

福音館書店

1999年10月

伝承の語り手の語りを188話収録し、CDにはそのうちの42話を収録している。簡単に聞き取れる方言ではないが、聞いていて心地よいリズムが感じられる。また、聞き書きによる「昔話と私」も非常に興味深い。

(鈴木由)

*表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。